



農の未来ネット

NO.36
5・6月号
(田植特集号)

特定非営利活動(NPO)法人「農の未来ネット」

理事長：倉本器征(東京農工大学名誉教授)

発行責任者：田沼 繁(NPO法人農の未来ネット事務局：電話&FAX 042-313-3620)

編集長：西村正昭

<http://www.nou-mirai.org/index.html>

みらい体験農場

**田植え 無事終わりました
皆様のご協力に感謝です**

みらい体験農場長

一之瀬 今朝一(愛称:オラッチ)

青空が澄み渡る5月19日(土)、田植えには「米作りマイスター」会員の家族総勢16人が参加。また、「米作りマイスター」グループ会員の武蔵大学後藤先生はゼミの学生さん4名を伴って参加してくれました。

田植えは、田圃2枚(1枚、約100坪)に、それぞれ古代米とコシヒカリの手植えです。田圃の端から端に縄を張り、縄に沿って、苗を数本掴みながら植えていきます。参加者の皆さんは、はじめてのお田植え。田圃に足を取られながら、一生懸命に苗を植えていただ

きました(写真)。本当にお疲れ様でした。



【写真】参加者一同での田植え作業

今年は、35アールの田圃にコシヒカリ、彩のかがやき、ミルキークイーン、そして古代米の4品種を栽培しました。19日当日は、くみ上げ方式の灌漑で水量が少ないため、ほとんどの田圃に水が入らず、代掻きが間に合いませんでした。代掻きができた田圃は機械植えを行い、参加した子供たちが機械植えで隙間ができた場所に補植作業を。大変頑張ってくれました。

「米作りマイスター」の田植えは、今年がはじめて。会員の交流会も計画しましたが、

に足がひっかかって動きにくかったです。田うえのまえに、お父さんに「ひもにそってうえろ。」と言われたので、田んぼのりょうはしでひもをひっぱっている人のひもにそってうえました。

さいしょは、ぜんぜんうまくなえをまっすぐうえることができなかつたけどやっている

うちだんだん うまくできるようになりました。

2回目に行った時は、1回目とくらべてすごくうまくできるようになりました。田うえにまた行って



てみたいで
す。

【写真】頑張る咲絵子ちゃん（右）と古屋かすみちゃん（中）

●中澤智活くん(小学6年)

「初めての田植え」

ぼくは、5月19日に生まれて初めて田植えをしました。

田んぼに入ってみると、どろが深くてやわらかくべちゃべちゃしていたので、足がどろの中にはまって動き回るのが大変でしたが、がんばって植えました。一つの田んぼに、十人くらいで田植えをやりましたが、ものすごく時間がかかって大変でした。

田植えをやった後に、田んぼから上がると足にどろがたくさんついてべちゃべちゃしていてすごく重くなっていました。

ちがう田んぼで、田植え機で植えていたところがありました。人が植えるのよりも速く、すぐまっすぐできれいに植えられていたので、田植え機がどうやっていねをとってきれいに植えているか知りたかったです。

●戸田浩一郎(武蔵大学経済学科2年)

私の祖父はたんぼを持っていて、そこで昔からコシヒカリをつくっていた。数年前に脳溢血で倒れ、半身麻痺になり、叔父が今では近所の仲間に頼んで米をなんとかつくりつづけているようだ。今年もおとなりさんにやってもらったらしい。

子供のころ、ごくたまにたんぼの仕事を手伝うことがあったが、水に浮くヒルやミミズをみて嫌々ながらやっていたのが記憶に残っている。とてもではないがたんぼなんかつまらなかった。が、今回、数回にわたって農の未来ネットを通して雑草とりやしろかきや黒塗りや手植を体験させてもらって、とても良い汗をかいた。たんぼの仕事って確かに汚くて疲れるしそれだけでは儲からなかったり大変だけれど、楽しいと思えた。自分のたんぼではないけれど細田さんのたんぼに自然と愛着がわく。

今から収穫が楽しみでワクワクする。

そうやって段々とたんぼの経営、管理を学び、できれば祖父のたんぼをまた続けてやりたい。

●岩藤一樹さん(会員)

何年前に、知り合いのところに押しかけた田植え以来の2度目の体験となりました。その時のき

め細かな土の感触と水の温かさに再び触れることを期待し、5月15日、武蔵大学の学生さん達と一緒に田植えに参加させて頂きました。

私は、田植え機による植え付け後の補植作業を頂戴し、苗を沢山植えた方が収穫量が多くなるのではないかとの誘惑に駆られながら、田沼さんの苗2~3本、25~30cm間隔で植えると云う指導を実直に守りながら作業を進めました。ただ、田んぼの中には水深が深いところもあり、ちゃんと苗が定着したかどうか不安で、一度確認が必要かと考えております。

気持ち良い汗を流すことができ、ありがとうございます。

●青木昂平さん(武蔵大学経済学科3年)

田植え作業当日、種蒔き後初めて苗の育った様を見てひとまず一安心しました。快晴の空の下始まった作業は、まず圃場の状況確認からでした。今回初めて、畦畔のことを「くろ」とも言って、くろ塗りという作業名があるのを知りました。手植えを行うのは人生2度目でしたが、やはり真っ直ぐ植えるのが難しく、熟練の方々の手つきを観察すると雲泥の差があると実感しました。今回最も印象に残ったのは、圃場に水を張るのに意外なほど時間を要することです。早く水を張る為に鍬で水路を作る作業をしましたが、不慣れなせいにか手に豆ができるほど疲弊しました。しかし、鍬で土を掘ることは農の原風景といったイメージがあり大変感慨深く思いました。

編集後記

農の未来ネットの田植えが終わり、一息つけるかなと思っていたときに野田首相の記者会見が6月8日にありました。野田首相は、関西電力大飯原発3、4号機を「再稼働すべきだというのが私の判断だ」と表明しました。その中身には腹がたちます。第一は福島のような事故は決しておこさない、第二は計画停電や電力料金大幅高騰という日常生活の悪影響を避ける、と言明。福島原発事故の原因も究明されていないのに、なぜ「事故を起こさない」と言い切るのでしょうか。誰が考えてもおかしいと言うでしょう。野田首相は全国で50基の原発が停止している中で、なんとしても大飯原発を再稼働させようと必死です。電力業界・財界の利益をあくまでも追求しようという執念を燃やしている野田首相の醜いあがきの姿としか見えません。野田首相は「国民生活を守る」と強調しますが、本当でしょうか。再稼働をしなければ計画停電などで日常生活や経済活動が混乱すると、脅かします。脅かせばなんとかなると思っているのでしょうか。首相官邸前をはじめ大飯原発の地元や全国各地で再稼働反対の怒りの行動が繰り広げられています。野田首相に求められているのは、「原発ゼロ」を決断し、再生可能なエネルギーへの切り替えです。私たち一人ひとりが再稼働を許さない、被災者の救済を行えという行動を広めていかなければという思いを強くする日々です。(西村)